

発行：日本社会病理学会

事務局：〒607-8175 京都市山科区大宅山田町 34
京都橘大学

TEL 075-574-4224 FAX 075-574-4122

URL <http://socproblem.sakura.ne.jp>

e-mail : takahara@tachibana-u.ac.jp

郵便振替口座：001704-4-56341

編集責任者：高原正興（庶務理事）

【目次】

1. 大会開催校からのあいさつ	2
2. 第32回日本社会病理学会大会のお知らせ	3
3. 渉外・広報委員会からのお知らせ	4
4. 編集委員会からのお願い	5
5. 2016年度第1回理事会報告（議事抄録）	5
6. 会員コーナーⅠ（リレーメッセージ）	7
7. 会員コーナーⅡ（近況報告）	8
8. 会員の新刊書の紹介コーナー	9
9. 会員異動	9
10. 事務局より	9

重要事項

1. 第32回大会は9月24日（土）25日（日）に福岡県立大学にて開催される予定です。

1. 大会開催校からのあいさつ

福岡県立大学へようこそ―「旧産炭地」でお会いしましょう！

福岡県立大学のベースになったのは、1967年4月に開設された福岡県社会保育短期大学です。1992年4月に4年制の福岡県立大学人間社会学部に改組、2003年には看護学部が新設され、現在は2学部体制となっております。

本学は、かつて日本最大の産炭量を誇った筑豊地域の中心部、福岡県田川市に位置します。明治維新以降、蒸気機関の燃料や製鉄の原料など、石炭は日本の近代化を押し進める原動力となってきました。1918年の時点で、三井田川鉱業所の従業員は1.7万人を超えていました。これだけの人が集まれば、その家族・従業員を相手とした商売も栄えます。1933年に「田川市」が誕生（人口7.3万人）、1955年には人口10万人を超えました。

しかし、その後にエネルギー革命が訪れます。三井田川鉱業所は1964年に閉山し、1970年には市内の小規模炭鉱も全て閉山し、田川市はいわゆる「旧産炭地」となりました。これ以後、「旧産炭地」で生じた各種の社会問題に対して、多くの社会病理学者が向かい合ってきたことは、学会員の皆様方にはご承知のことと思います。

このような地に所在する本学は、学会理事会から何度も大会開催を打診されてきましたが、交通の便の悪さ、会員である教員の少なさ、宿泊施設などの問題があり、繰り返し辞退せざるを得なかったと聞いております。しかし、近年になり、北九州空港の開港、福岡市中心部～大学キャンパスを結ぶ直行バス路線の就役、ビジネスホテルの開店、有力な若手教員の着任などの幸運が重なり、ようやく学会を開催できる運びとなりました。大会の準備はこの期待の新星・堤圭史郎会員と私とで進めております。至らぬ点もあるかも知れませんが、かつて（あるいは現在でも）社会病理学の重要なフィールドとされたこの地で本学会大会を開催できることは、非常に意義深いものと考えます。炭鉱住宅、二本煙突、広いJRの施設、ボタ山、香春岳……土門拳『筑豊のこどもたち』（1960）や五木寛之『青春の門』（1970）で描かれた風景も、閉山から45年以上たった現在でも垣間見ることができます。少し余裕を持ったスケジュールをお組みになって、田川市石炭記念資料館などをご見学されても良いかと存じます。

皆様のお越しを心よりお待ちしております。

（大会実行委員長・中村晋介）

◆田川市（福岡県立大学）への交通アクセス

①北九州市～田川市

- ・JR日田彦山線 小倉～田川伊田（62分）
- ・西鉄バス快速 小倉駅／平和通り～南大通（70分程度）

②飯塚市～田川市

- ・JR後藤寺線 新飯塚～田川後藤寺（21分）
- （乗換）→JR日田彦山線 田川後藤寺～田川伊田（3分）
（田川後藤寺駅～田川伊田駅は一駅ですので、タクシーで直接、福岡県立大学に乗り付ける方が多いです）
- ・西鉄バス特急 新飯塚駅～後藤寺バスセンター（30分程度）
- 以後はタクシーが無難

③福岡市～田川市

・西鉄バス特急 天神高速バスターミナル～福岡県立大学（約 90 分）

2. 第 32 回日本社会病理学会大会のお知らせ

第 32 回大会は、2016 年 9 月 24 日（土）・25 日（日）の両日、福岡県立大学にて開催されます。今年度のシンポジウムは、大会初日の午後に以下の陣容で開催することとなりました（敬称略）。

「生活困窮問題の現状と課題」

司会 進藤雄三（大阪市立大学）

1. 女性と子どもの社会的排除から包摂へ

神原文子（神戸学院大学）

2. 地域的に顕現する貧困・社会的排除

——大阪府の 2010 年国勢調査データにみる課題集積地域の現状と課題——

妻木進吾（龍谷大学）

3. 生活困窮の状況と伴走型支援-北九州市での事例をもとに-

稲月正（北九州市立大学）

討論者 堤圭史郎（福岡県立大学）

また、2 日目の 9 月 25 日（日）の午前の部では、午前 10 時より 3 部会編成の自由報告部会が開かれます。その午後には、「社会病理学の超克のために-若手会員の視点」という表題によるテーマセッションが、田中智仁会員を企画者として、田中智仁（仙台大学）・堀越直仁（日本大学）・齋藤知範（科学警察研究所）・赤羽由起夫（筑波大学）という 4 名の登壇者により開催されます。このセッションは、2014 年の第 30 回大会特別企画「社会病理学の 30 年」、第 31 回大会のテーマセッション「第 30 回大会企画『社会病理学の 30 年』を若手会員はどう捉えたか」を踏まえ、さらに社会病理学の未来を展望する企画となっています。

昨年度は東北の岩手大学での開催、今年度は北九州の福岡県立大学での開催と、大会開催の全国的広がりが実感できるようになりました。自由報告部会も 3 部会構成となり、シンポジウム、テーマセッションと合わせ、充実した大会になることを祈念しております。

会員のみなさまには、是非大会への積極的ご参加をお願い申し上げます。

（研究委員会委員長・進藤雄三）

3. 渉外・広報委員会からのお知らせ

1. 日本犯罪社会学会第 43 回大会

日本犯罪社会学会第 43 回大会が 10 月 29 日（土）・30 日（日）の両日、甲南大学（神戸市）で開催されます。

第 1 日目午前の部は、10 時から自由報告の 3 部会が開かれます。午後の部は、13 時から 15 時 30 分までテーマセッション 4 部会が行われます。内容は、A：脳科学と少年司法、

B：犯罪加害者への取り組み、C：暴力団員と離脱者の支援、D：地域生活定着支援事業の現状と課題、となっています。引き続き、15時40分から18時10分までテーマセッション3部会が開かれます。内容は、E：少年法適用年齢引き下げ、F：犯罪者を親にもつ子どもの視点から見た被虐待児への支援、G：再犯・再非行防止に向けた調査研究の概要と今後の展望、となっています。18時10分からの総会の後、19時10分から懇親会が開催されます。

第2日目は、10時からテーマセッション3部会が開かれます。内容は、H：刑事政策学の復権Ⅱ、I：子供・女性・高齢者を守るための犯罪予防研究の最近の状況と活用方策、J：刑罰や刑事司法の信頼等に関する意識調査、となっています。昼休みを挟んで、13時30分からはシンポジウム「刑事司法と対人援助—誰のために、何を—」が開催されます。福島至会員（龍谷大学）がコーディネータ・司会を務め、指宿信会員（成城大学）、水藤昌彦会員（山口県立大学）、池原毅和氏（弁護士）、森久智江会員（立命館大学）による報告ののち、討論が行われる予定となっております。

ご関心をお持ちの日本社会病理学会会員の皆様のご来場をお待ちしています。

（渉外・広報委員会委員長・矢島正見）

2. アジア犯罪学会

アジア犯罪学会の第8回大会は、北京のフレンドシップホテルで6月17日から19日の間に開催されました。第9回大会は、オーストラリアの Queensland University of Technology の犯罪・司法研究センターとの共催で、2017年7月10日から13日の間、“Crime and Justice in Asia and the Global South” のテーマで開催されます。詳細は、ホームページ (<http://crimejusticeconference.com.au/>) をご覧ください。

3. 世界犯罪学会議

世界犯罪学会議の第18回大会は、2016年12月15日から19日の間、インドのデリーで “Urbanization, Globalization, Development & Crime: Opportunities & Challenges of the XXI Century” のテーマで開催されます。詳細は、ホームページ (<http://jibsisc2016congress.com/>) をご覧ください。

4. 日本犯罪学関連学会ネットワーク

来年の9月に、本学会を含む犯罪学関連の5学会の合同大会が、國學院大學で開催される予定です。

（文責：横山實）

4. 編集委員会からのお願い

現在、機関誌『現代の社会病理』31号の査読等に目処が付き、9月の大会に間に合うように編集作業が進行中です。8月から9月上旬にかけて、印刷所から校正等の連絡が入りますので、執筆の先生方ご協力宜しくお願い致します。

（編集委員会委員長・畠中宗一）

5. 2016 年度第 1 回理事会報告（議事抄録）

1. 日時：2016 年 6 月 26 日（日）14:00～16:00
2. 場所：中央大学後楽園校舎 6701 教室
3. 出欠：出席者 10 名（朝田佳尚、井上眞理子、清水新二、進藤雄三、高原正興、畠中宗一、松下武志、矢島正見、山本努、横山實）、議長委任 2 名で定足数を満たした。
4. 議題

①第 32 回大会プログラム案の件

進藤研究委員長より第 32 回大会プログラム案について提案があり、公開シンポジウム（生活困窮問題の現状と課題）、テーマセッション（社会病理学の超克のために－若手会員の視点）、自由報告の三つの構成とそれぞれの内容について協議の結果、承認された。また、理事改選のため、現理事会に新理事がオブザーバー参加することを確認した。

②機関誌『現代の社会病理』第 31 号編集の件

畠中編集委員長より機関誌『現代の社会病理』第 31 号の編集状況について説明があり、自由投稿論文 9 本のうち約半数が再査読に残っていること、「特別企画・研究動向」として 1 本を掲載することを確認した。また、印刷所の変更などは次期編集委員会で検討することとした。

③学術奨励賞の選考の件

高原庶務理事より、本年 3 月末までに研究奨励賞自薦 1 件の応募があり、また、選考委員会独自の出版奨励賞の推薦 1 件があり、5 月 31 日に選考委員会（佐々木嬉代三委員長）が開催されたことが報告された。選考の結果、出版奨励賞（平井秀幸会員）の授賞が同委員会から推薦され、これを受けて、同会員の出版奨励賞の授賞を理事会として決定した。

④入会・退会希望者の承認の件

3 名の入会申し込みと 2 名の退会希望を承認した。また、高原庶務理事より、会費納入の催促の結果をふまえて、5 年間長期未納の会員について報告があり、該当者 6 名を会員資格喪失による退会扱いとすることが承認された。

⑤終身会員申請者の承認の件

高原庶務理事より、保坂恵美子会員から終身会員の申請があったことが報告され、同会員資格を満たしているとみなして承認された。

⑥次回理事会の日程・会場の件

2016 年度第 2 回理事会は 9 月 24 日（土）11 時より、第 3 回（新）理事会は同 12 時より、福岡県立大学で開催することを確認した。

⑦学会ニュース 82 号の編集の件

高原庶務理事より同ニュースの編集内容と日程について報告があり、これを承認した。

⑧学会ニュースの電子メール化の件

前回理事会からのペンディング事項について協議した結果、電子メール化のメリットとデメリットを含めて次回理事会に申し送ることを確認した。

⑨HP の前文改訂の件

朝田庶務理事より HP の前文改訂の原案が提案され、既にメールで検討したこともあり、原案どおり承認された。

⑩名誉会員の推薦の件

理事会から同資格に適う松下武志会員と横山實会員を名誉会員に推薦することが提案され、承認した上で総会に諮ることとした。

5. 報告

- ①庶務部、会計部、研究委員会、編集委員会から特別な報告はなかった。
- ②渉外・広報委員会として横山会長からアジア犯罪学会大会の日程について報告があった。また、来年度の犯罪学系合同大会は國學院大學を会場にして9月開催の予定であること、幹事学会が司法福祉学会に移っていることが報告された。
- ③事務局より、当日現在の本学会の会員数は180名であることが報告された。
- ④高原庶務理事より、『関係性の社会病理』が3月に発行されたこと、学文社の意向によって本学会「編集」から「監修」に変更したことが報告された。
- ⑤事務局より、きたる理事選挙について現理事の被選挙権について確認が行われた。
- ⑥事務局より、メール便から郵便への切り替えの件について、「学術刊行物」の認可を得られればかなり安価で学会誌を発送できるという報告があった。

(庶務理事・高原正興)

6. 会員コーナー I (リレーメッセージ)

「『心の病』の治療につなぐ社会的求心力が人々の自己観に及ぼす影響の考察」

榎原克哉 (東京大学大学院)

筆者はこれまで、心の病を患い、精神医療機関を外来受診した経験のある人々を対象としたインタビュー調査を実施してきました。特に人々が自身の「心の病」をどのように解釈し、診断を受け、薬物療法や精神療法等を受けてきたのか、さらにそこからどのような自己観や治療観を抱くようになったのかを、主要なテーマとして考察してきました。

現代の日本では精神医療がますます身近なものとなっています。いくつかその背景要因を挙げてみますと、第一に、医学知・医療技術の変容があり、分子生物学や精神薬理学の発展のほか、1980年以降に導入された生物医学をベースとした診断基準の採用があります。第二に、日本の中枢神経領域の市場規模は、2005年以降漸増の傾向を続けており、このことから薬物療法が数多くなされていくことが推察されます。第三に、日本では1996年から2014年にかけて、精神科の数が約3,000軒から約6,500軒に2倍以上、心療内科の数が約500軒から約4,500軒に9倍近く増加しています。第四に、政府や製薬企業による「心の病」の啓発活動の影響もあり、医学的知識や情報を人々が取得しやすくなったことがあります。このような精神医療インフラの拡充や医学的知識の普及もあって、精神的問題を緩和する方法として、精神医療機関の受診が選ばれやすくなっていると考えられます。

社会学者のニコラス・ローズは、生活のなかで生じるさまざまな問題や困難に対して、向精神薬を用いる社会像を「精神薬理学的社会」と呼んでいます。日本では薬事法の関係もあり、同社会は医療機関を中心に生じつつあるといえます。そして、薬物療法に焦点を当てるならば、人々が処方薬を用いながら自身の脳を適切に調整し、そのなかで回復や社会環境への適応を模索していくような機会がますます増大していく状況にあります。

このような社会背景のもと、「心の病」を治療する医療機関の門戸が広く開かれ、多くの人々が治療を求めるようになりました。そして、筆者はこれまで調査を続けるなかで、治療が功を奏した人々に出会ってきました。一方で、回復や緩和の可能性を求めて通院を続けるものの、状態の改善が見込めず、治療法や治療方針の再考を余儀なくされる人々に

も出会ってきました。人々の一部は、自身に有効な別の治療法をさらに求めたり、自己診断をし直したり、脳波測定などの医療テクノロジーを用いた診断を受けて自分の病の“真実”を知ろうとするなど、治療の道筋が定まらない不安を抱えつつも、試行錯誤を続けていました。また、他の人々は精神療法の言語や実践を日常生活のなかに積極的に取り組むことで自己観を変えようとしたり、諦念や宿命として「心の病」を捉える人々もいました。

「心の病」を治療する社会的求心力が強まり、生物医学を主軸とする精神医学モデルが興隆すると同時に、複数の医学知や医療技術が競合する社会。このような社会のもとで、人々が治療に何を求め、治療法のなかから何を選びとり、どのような自己観を導出していくのか。この問題を今後も問い続けていきたいと考えています。本学会のみなさまには、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

7. 会員コーナーⅡ（近況報告）

○黒田宣代（中九州短期大学）

(1) 最近の研究テーマ・関心事

主に学校教育病理にあります。特に教育相談分野です。学校では、現在、地域の人をはじめ、様々な専門家が足を踏み入れ、新たな風が吹こうとしております。しかしながら、教員文化なるものが存在し、なかなか開放的な環境とは言えません。学校文化が今後どのように変容していくのか。そのあたりを見つめていきたいです。

(2) 著書・論文等

2015「学校教育現場における思春期生徒の発達とその支援—相談室生徒支援を中心に—」福岡国際大学紀要第34号

2015「現代日本人に見る『社会的性格』——中年世代を焦点に——」中九州短期大学論集第38巻第1号

○桑畑洋一郎（梅光学院大学子ども学部）

(1) 最近の研究テーマ・関心事

最近はHTLV-1（ヒトT細胞白血病ウイルス）をめぐる社会学的研究を主に行っています。また、山本努先生・山下亜紀子先生・吉武由彩先生と『新版 現代の社会学的解説』を執筆しました（執筆者は全員当学会の会員です）。

(2) 著書・論文等

2013『ハンセン病者の生活実践に関する研究』風間書房

2016 山本努編著『新版 現代の社会学的解説』学文社（9月刊行予定。第7章と第8章の一部を書かせていただきました）

○菊地真理（大阪産業大学経済学部）

(1) 最近の研究テーマ・関心事

1. インタビュー調査やNP0へのフィールドワークを通じて、ステップファミリーのメンバーが経験する葛藤や困難と、現行離婚制度の課題を明らかにする研究を継続しています。

2. 子育てサービスの質量や育児ネットワークの利用可能性が、子育て世代の居住地選択にどのような効果があるのか、近畿地方の複数の自治体において比較分析する研究を進めています。

(2) 著書・論文等

2014「離婚・再婚とステップファミリー」長津美代子・小沢千穂子編『新しい家族関係学』建帛社, pp. 105-120

2016「子育て世帯の定住意思を決めるもの—子育てサービスと育児ネットワークからみた要因分析」『2015年度 参加者公募型二次分析研究会 子育て支援と家族の選択研究成果報告書』東京大学社会科学研究所 附属社会調査・データアーカイブ研究センター, pp. 223-239 (後藤達也氏との共著)

近刊「ステップファミリーにおける別居親子関係と同居継子親子関係」松岡悦子編著『国家とリプロダクション(仮)』勉誠出版

8. 会員の最新刊書の紹介コーナー

*以下の最新刊書は理事会と事務局で入手した情報によるものです。

廣末登『ヤクザになる理由』新潮新書 2016 821 円

山本努・稲月正・辻正二編著『現代の社会学的解読—イントロダクション社会学』学文社 2016 (9月刊行予定) 2,592 円

9. 会員異動

個人情報につき削除

10. 事務局より

1. 過去の「大会プログラム・要旨集」の収集について

事務局では、保管用と今後の学会ウェブサイトへの掲載のために、現在手元がない以下の「大会プログラム・要旨集」のバックナンバーを探しています。会員の皆様の中で、下記の「大会プログラム・要旨集」をお持ちの方は、ぜひ事務局にお知らせ下さい。寄付あるいは一時的な貸与をお願いします。貸与していただいた場合は、複写した後にご返送させていただきます。

・1985～1988年(第1～4回大会)

2. 会費のお支払いについて

2016年度の会費の支払い用に同封の振込用紙をご使用下さい。また、2015年度以前の会費を未納の方も同封の振込用紙をご使用下さい。会費のお支払いの際は以下の諸点にご注意下さい。

(1) 会費は7,000円です。ただし、「大学院に在籍する者の会費は、当該会員の申請により、理事会の定めるところによる」(会則第19条2)という規定にもとづき、大学院生の会費は5,000円として本人の申請によります。大学院に在籍する会員は、振込用紙の通信欄に、在籍する①大学院研究科の名称、②課程、③学年、を明記して申請して下さい。なお、申請は毎年度行って下さい。この記載がなく5,000円が振り込まれた場合は、2,000円不足として処理します。

(2) 会則第19条1には、たとえば外国籍会員の経済事情等の特別の事情がある場合、理

事会の議を経て会費を減免できるという規定があります。減免を希望する会員は、減免を申請する旨とその理由を簡単に記した書面を事務局までお送り下さい。理事会で申請が認められると、会費が機関誌代だけに減免されます。理事会の審議の結果は事務局よりお知らせします。

(3) 2011 年度から 終身会員 の制度が定められました。日本社会病理学会の通常会員歴が 15 年以上で 70 歳以上の方が対象となります。終身会費として 5,000 円の納入で、会員資格を継続することができます（ただし、機関誌 1,500 円は実費購入）。終身会員を希望される会員は学会事務局に所定の申請文書を提出して、理事会の承認を得る必要があります。

(4) 会費を所属機関から直接お支払いいただく場合は、必ず会員の個人名を付記して下さるようお願いいたします。個人名の記載がない場合、入金処理ができないことがあります。

3. 所属・住所の変更について

所属・住所などが変更になりましたら、必ず書面（はがき・ファックス・E-mail 可）にて事務局までお知らせ下さい。

4. 入会申し込みについて

事務局では常時、入会の申し込みを受け付けています。学会ホームページ (<http://socproblem.sakura.ne.jp>) からダウンロードできます。なお、身近に推薦者がいない場合は事務局にご相談下さい。

以 上

※次頁の「学会出席・発表のための出張扱いについて」は、会員各位でコピーをとってご利用下さい。

2016年8月26日

殿

日本社会病理学会
会長 横山 實
(公印省略)

学会 出席・発表のための出張扱いについて（ご依頼）

日本社会病理学会では、来たる9月24日（土）・25日（日）に、福岡県立大学（福岡県田川市）において、日本社会病理学会第32回大会を開催いたします。

つきましては、本大会に出席・発表する下記会員について、出張扱いその他のご便宜をお取り計らいくださいますようお願いいたします。

記

1. 氏 名
2. 所 属
3. 発表題目

*公印が必要な会員におかれましては、事務局までご連絡下さい。